

本来、目に見えないはずの幽霊——しかしこれまで日本人は、それを文学作品や映像コンテンツによって描いてきた。

「幽霊」という言葉の意味は時代によって変遷し、それはときに現代人の多くが想像するものと大きく異なる。

人びとは幽霊をどう感知し、それを表象するためにいかなる工夫をしてきたのか、幽霊になにを求めたのか。歴史学、メディア学、文学、美術史学、宗教学、社会学、民俗学等さまざまな研究分野から日本人の精神世界の一端に迫る。

【目次】

第Ⅰ部 幽霊の存在論—それはどう生起するのか

生と死の間—靈魂の観点から(山田雄司)
幽霊ではなかった幽霊—古代・中世における実像(小山聡子)
死霊表象の胚胎—記紀・万葉集を中心に(松井健人)

第Ⅱ部 幽霊の表現論—それはどう描かれるのか

化物振舞—松平南海侯の化物道楽(近藤瑞木)
『新釈四谷怪談』のお岩が映しだすもの(鈴木潤)
—占領期の日本映画検閲と田中絹代のスターイメージをめぐって
祟りきれない老婆と猫(山口直孝)
—中川信夫『亡霊怪猫屋敷』のモダンティ
幽霊とゾンビ、この相反するもの(岡本健)
—肉体と靈魂の関係性と価値観の伝播について
予見者・反逆者・哲学者—大塚睦の「幽霊」(足立元)

第Ⅲ部 幽霊の空間論—それはどこに出没するのか

上から出る幽霊—地上七・八尺の異界(山本陽子)
立ち現れる神霊—御嶽講の御座儀礼(小林奈央子)
大都市江戸の怪異譚—『耳袋』と『反古のうらがき』から(内田忠賢)
デジタル時代の幽霊表象(松本健太郎)
—監視カメラが自動的/機械的に捕捉した幽霊動画を題材に
現代社会の幽霊(ゴースト)的読解(遠藤英樹)
—ホラー映画の表象とメディアの物質性(マテリアリティ)



小山聡子・松本健太郎編『幽霊の歴史文化学』

【二松学舎大学学術叢書】

四六判上製・344頁/定価:本体 2,500円+税

ISBN:978-4-7842-1964-3

2019年2月刊行

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行:思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	幽霊の歴史文化学 本体2,500円(税別)		ISBN978-4-7842-1964-3	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

怨霊・怪異・伊勢神宮

山田雄司著

古代・中世社会で大きな意味をもち、社会の底流で歴史を動かしてきた怨霊・怪異。早良親王・菅原道真・崇徳院などの怨霊や、様々に記録・伝承される怪異など、その諸相を歴史的に跡づける。さらには親鸞や伊勢神宮といった、神と仏をめぐる領域をも射程に入れて集大成する。

▶A5判・448頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1747-2

平安王朝の葬送 死・入棺・埋骨

瀧谷寿著

日本古代撰・院政期の天皇(桓武～安徳天皇)と貴族の葬送儀礼における具体相をさぐり、その相違点を考察。平安王朝の死、入棺、葬送、埋骨の様相を通覧して、皇権の在り方を考える。土葬から火葬への変遷が一覧できる表を付載。

▶四六判・304頁／本体3,700円(税別)

ISBN978-4-7842-1832-5

平安時代陰陽道史研究

山下克明著

陰陽道の成立・展開期である平安時代を中心に、仏教・神祇信仰と並ぶ宗教としての陰陽道のあり方、陰陽師たちの天文観測技術や呪術・祭祀など活動の実態とその浸透、彼らの信仰などをさまざまな角度から明らかにする。陰陽師が残した日記である『承久三年具注曆』の翻刻を収める。

▶A5判・460頁／本体8,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1780-9

藤原道長事典 御堂関白記からみる貴族社会

大津透・池田尚隆編

『御堂関白記全註釈』(全16冊)の成果をふまえて、約1050項目を新たに書きおろし、11の大分類に整理。ユネスコ「世界の記憶」『御堂関白記』(陽明文庫蔵)を通して、最新の研究成果にもとづいた新たな平安朝の貴族社会像を提示する。

▶A5判・462頁／本体6,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1873-8

変容する聖地 伊勢

ジョン・ブリン編

今日、伊勢神宮は古代から変わることなく受け継がれてきた聖域というイメージで語られる。しかしその神宮像はそれほど時代をさかのぼるものではなく、神宮が移りかわる時代のなかで大きく変貌を遂げてきたことはあまり語られていない。国内外の一線の研究者が古代から近・現代にわたる伊勢神宮の変容の歴史をひもとく。

▶A5判・340頁／本体2,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1836-3

元三大師御籤本の研究 おみくじを読み解く

大野出著

【オンデマンド版】

おみくじの源流を探っていくと、必ずたどり着くのが元三大師御籤。じつは現代のおみくじも多くは元三大師御籤本に由来している。江戸時代のそれらの史料群を時系列に従って比較、分析する(初版2009年)。

▶A5判・204頁／本体4,000円(税別)

ISBN978-4-7842-7008-8

風俗絵画の文化学 II 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者による風俗絵画分析。絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」—虚実を往来する機微や感性の「かたち」—を明らかにしていく。

▶A5判・450頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1615-4

※動員のメディアミックス

大塚英志編

〈創作する大衆〉の戦時下・戦後

まんが・アニメーション・映画・模型といったメディア内、およびメディア間の相互関係のみならず、多様な分野に成立した〈創作する大衆〉の「書く」「つくる」という行為や書式が、いかにして「動員」されていったのか。その諸相を描き出す。日本映画史研究の第一人者・牧野守氏による三木茂(1905～78 記録映画監督)インタビューを収録。

▶A5判・520頁／本体4,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1897-4

崇徳院怨霊の研究

山田雄司著

日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになったのか、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す『保元物語』がいかにしてまとめ上げられていったのかを、文書・記録・物語の相互関係を細部にわたって検討することにより解明する(初版2001年)。

▶A5判・318頁／本体6,400円(税別)

ISBN978-4-7842-7005-7

※奈良朝人物列伝 『続日本紀』 薨卒伝の検討

林陸朗著

『続日本紀』には王臣・僧侶等の死没記事のあとに、その人の略伝的な記事を掲げることがある。これを薨卒伝といい、撰者の批評的記事を交えた極めて特色ある史料として注目される。本書は『続日本紀』収録の全54名の薨卒伝をとりあげ現代語訳・訓読・原文・語句解説・考察で構成。

▶A5判・468頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1517-1

神話・伝承学への招待

斎藤英喜編

桃太郎は、なぜ桃から生まれてくるのだろうか——その答えは『古事記』のなかにあった。これまで別々のジャンルで扱われてきた「神話」と「伝説」「昔話」について、総合的・学問的に研究する「神話・伝承学」。本書は11の章と7つのコラムにより、魅力ある「神話・伝承学」の世界へいざなう、格好の入門書。

▶A5判・266頁／本体2,300円(税別)

ISBN978-4-7842-1813-4

八瀬童子 歴史と文化

宇野日出生著

京都の八瀬の地に平安時代より生活してきた八瀬童子。彼らは自治組織を形成し、比叡山や天皇家と深い関わりを持ってきた。非公開であった八瀬童子の関係文書を調査し、民俗調査を行った著者が、彼らの苦難にみちた激動の歩み、そして今に伝わる思想・行動を、歴史に裏付けられた「文化」としてとらえた一書(初版2007年)。

▶四六判・226頁／本体4,500円

ISBN978-4-7842-7024-8

近世寺社参詣の研究

原淳一郎著

人はなぜお参りするの——古くは貴人たちの熊野詣から寺社参詣は日本人の信仰心をあらわす一つの姿であった。「寺社参詣」という行動様式そのものを研究対象の根本にすえて、江戸時代に隆盛を迎えたさまざまな寺社参詣の広がりをも思想的・文化史的立場から位置付けた一書(初版2007年)。

▶A5判・416頁／本体8,300円(税別)

ISBN978-4-7842-7013-2

歴史のなかの天皇陵

高木博志・山田邦和編

各時代に陵墓がどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆者による座談会を収録。

▶A5判・340頁／本体2,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1514-0

風俗絵画の文化学 III 瞬時をうつすフィロソフィー

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

風俗画に描かれた事象に織り交ざる虚実を読み解くことで、鑑賞されることを意識した美的な演出や、儀礼や慣習から生じた絵の上での約束事や仕掛け、信仰のイメージや地域に根ざした特殊な世界観などといった、人間の営為そのものの原理を探究する。

▶A5判・434頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1775-5

ヴァナキュラー文化と現代社会

ウェルズ恵子編

「ヴァナキュラー(vernacular)文化」とは、ある集団の人々の生活に深く関連した文化と、特定の時期や時代や状況や土地で発生した文化、および、そうした文化の底流となっている伝統を指す。現代社会が呼びおこすさまざまな波紋を、「ヴァナキュラー文化」として読み解く。

▶A5判・336頁／本体6,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1933-9